

アストロツーリズムに対する日中間の認識ギャップに注目した意識調査

澤田 幸輝・高 偉・池本 阿佳里・角田 夏樹・李 瑾・関戸 麻友
寺澤 舞花・王 元劭・尾久土 正己 (和歌山大学)

A Survey for Perception Gaps between Japanese and Chinese to Astro-Tourism

Koki Sawada, Wei Gao, Akari Ikemoto, Natsuki Kakuda, Jin Li, Mayu Sekido
Maika Terazawa, Yuanshao Wang, Masami Okyudo (Wakayama University)

Abstract

Although astro-tourism has started to attract an increasing number of tourists all over the world, there are different perceptions between countries for gazing starry skies. In this presentation, we analyzed a total of 11 questions, carrying out a web-based questionnaire for Japanese and Chinese to examine the gaps between both perceptions to astro-tourism.

1. はじめに

近年、「美しい星空や天文現象を見上げるために居住地を離れる諸活動」と定義される「アストロツーリズム (以下 AT)」が、国際的に注目を集めている[1]。当該ツーリズムの推進によって、これまで等閑視されてきたナイトタイムエコノミーの創出につながることで、光害防止啓発運動が惹起すること、地域固有の星文化継承につながるなどから、持続可能な観光開発に資する観光形態として、広く評価されている。

他方、観光客レベルで見ると、AT に対する認識には、国ごとによって差異が見られる[2]。それは、星空を見上げることへの意識が国際間で統一されていないことの現れである。かかる理解のもと本報では、日本人と中国人の比較を通して、AT に対する国際間の認識ギャップの内実を考察する。なお本報は、和歌山大学大学院観光学研究科の講義「宇宙観光特論 (担当教員：尾久土正己)」受講生が実施した調査結果であり、今後の AT 研究の予備調査としての位置づけであることに留意いただきたい。

2. 研究手法と調査の手続き

本報では、web アンケート機能 (日本人：Google Form、中国人：問卷系統) を用いた意識調査を実施した。本調査における設問は、「癒し・リラックス」、「ロマンチックさ」、「楽しみ・ワクワク」、「天文知識に関する学び」、「文化に関する学び」、「綺麗な星空」、「望遠鏡を覗くこと」、「手つかずの自然」、「ブログ・SNS での発信」、「写真・撮影」、「友人や家族とのふれあい」の 11 項目で、それぞれ 5 段階のリッカート尺度 (「1. 全く求めない」—「5. 強く求める」) で回答するものとした。かかる質問項目は、執筆者 9 人で、「観光客が AT に求めるもの」という論題に対して回答され得る事項をできるだけ多く書き出し、それをもとに KJ 法を用いて整理したものである。なお回答者の基本属性を把握するために、「年齢 (「18 歳」から「100 歳以上」の中で 1 つ選択)」、「性別 (「男性」・「女性」・「どちらでもない」・「回答しない」の中から 1 つ選択)」、「国籍 (自由回答)」、「AT 体験の有無 → 「有」の場合：実際のシチュエーションを「1 人旅」、「カップル旅行 (恋人同士の旅行)」、「家族旅行」、「友達と旅行」、「団体旅行」、「その他 (自由記述)」の 6 つの中から 1 つ選択、「無」の場合：想定する局面を上記 6 つの中から 1 つ選択」の 4 つの設問を立てた。実際の質問フォームは、以下を参照されたい。

<https://forms.gle/7nqma7m6ZJa6oys89>

本調査におけるサンプリングは、執筆者 9 人が属するコミュニティの成員を対象にした。そのため、収集したサンプルの属性に偏りがあることに留意する必要がある。サンプルの総数は、

日本人が 257、中国人が 86 であった。なお中国人のサンプルは、20 代に偏在しており（72 人）、AT 体験の無い回答者が多い結果となった（66 人）。かかる点に鑑み、本調査では、「18 歳から 29 歳の回答者で、AT 体験が無い者」というコーディングを行った。コーディング後のサンプル数は、日本人が 86（男性：29、女性：57）、中国人が 65（男性：42、女性：23）であった。なお日本在住者で、国籍を「朝鮮」および「韓国」と回答していたサンプルは、日本人としてカウントすることとした（サンプル数：2）。また「性別」で、「どちらでもない」、「回答しない」と回答していたサンプルは、本コーディングにおいて棄却した（日本人：4、中国人：1）。

3. 結果

まず第一に、日中間における AT を体験する際に思い描くシチュエーションの、比較分析を行った（表 1）。総計で比較した結果、両国間に大きな差異は看取されなかった。両国ともに、「カップル旅行」の割合が最も大きく、以下「友達と旅行」、「1 人旅」の順であった。

表 1. AT を体験する際に想定する局面の平均値

	日本 (N=86)	中国 (N=65)
1 人旅 (総計)	9.30%	12.31%
1 人旅 (男性)	17.24%	11.90%
1 人旅 (女性)	5.26%	13.04%
カップル旅行 (総計)	47.67%	44.62%
カップル旅行 (男性)	41.38%	45.24%
カップル旅行 (女性)	50.88%	43.48%
家族旅行 (総計)	6.98%	6.15%
家族旅行 (男性)	10.34%	4.76%
家族旅行 (女性)	5.26%	8.70%
友達と旅行 (総計)	36.05%	30.77%
友達と旅行 (男性)	31.03%	30.95%
友達と旅行 (女性)	38.60%	30.43%
団体旅行 (総計)	N/A	3.08%
団体旅行 (男性)	N/A	4.76%
団体旅行 (女性)	N/A	N/A
その他 (総計)	N/A	3.08%
その他 (男性)	N/A	4.76%
その他 (女性)	N/A	4.35%

他方で、性差でクロス分析すると、両国間に差異が見られた。「1 人旅」の割合を見ると、日本人男性の割合が最も大きく、中国人男性と比較すると+5.34%、日本人女性と比較すると+11.98%であった。このことから日本人男性は、1 人で星空を見上げることへの意識が、特に強いことが理解できる。

「カップル旅行」の割合を見ると、日本人女性の割合が最も大きく、中国人女性と比較すると+7.40%、日本人男性と比較すると+9.50%であった。また「友達と旅行」の割合も日本人女性の割合が最も大きく、中国人女性と比較すると+8.17%、日本人男性と比較すると+7.57%であった。このことから日本人女性は、彼氏・友人を問わず、誰かと一緒に星空を見上げることに、とりわけ重きを置いていることが看取できる。

次に、11 項目の質問事項を、5 段階評価の平均値で比較分析した。その際、上述した、想定するシチュエーションの

割合が大きかった 2 項目—「カップル旅行」、「友達と旅行」と性差でのクロス分析も行った（表 2）。その結果、日中ともに、「癒し・リラックス」、「ロマンチックさ」、「楽しみ・ワクワク」の心理的側面に、特に重きを置いていることが分かった。他方で、日本人における「ブログ・SNS での発信 (2.72)」、「写真・撮影 (3.85)」、「友人や家族とのふれあい (3.52)」の社会的側面の数値がとりわけ小さい結果となり、中国人と比較すると-1.56 となった。このことから日本人は、AT では同行者との交流にあまり重きを置いておらず、また SNS などを通じて星景写真を他者と共有することにも中国人ほど求めていないことが看取された。この傾向は、特に日本人男性に顕著に表れており、「ブログ・SNS での発信」は 5 段階評価中 2.38 に留まっていた。翻って中国人女性は、「ブログ・SNS での発信」と「写真・撮影」の値が、他属性に比して大きくなっており、とりわけ「カップル旅行」の選択者は前者が 4.50、後者が 4.70 となっていた。このことより中国人女性は、彼氏と一緒に映った星景写真を、SNS 等を通じて他者に発信することに重きを置いていることが看取される。

表 2. 各質問事項の結果の平均値（5段階のリッカート尺度にもとづく）

	心理的側面			学習的側面					社会的側面		
	癒し	ロマンチック	楽しみ	天文知識	文化	綺麗な星空	自然	望遠鏡	ブログ・SNS	写真・撮影	ふれあい
日本総計 (N=86)	4.39	4.07	4.34	3.18	2.84	4.89	3.74	3.23	2.72	3.81	3.50
中国総計 (N=65)	4.50	4.15	4.38	3.64	3.65	4.80	4.55	4.03	3.09	4.24	4.32
日本男性 (N=29)	4.41	4.17	3.93	3.03	2.72	4.90	4.07	3.07	2.38	3.72	3.62
日本女性 (N=57)	4.37	4.02	4.53	3.28	2.89	4.88	3.63	3.35	2.89	3.91	3.47
中国男性 (N=42)	4.33	4.10	4.31	3.57	3.67	4.74	4.55	3.83	2.74	3.95	4.29
中国女性 (N=23)	4.78	4.22	4.48	3.74	3.61	4.91	4.52	4.39	3.74	4.74	4.35
日本カップル (N=41)	4.39	4.27	4.12	2.88	2.46	4.88	3.61	3.07	2.95	3.85	3.66
中国カップル (N=29)	4.50	4.15	4.38	3.64	3.65	4.80	4.55	4.03	3.09	4.24	4.32
日本男性カップル (N=12)	4.08	4.42	3.50	2.42	2.58	4.92	4.17	2.75	2.33	3.58	3.67
日本女性カップル (N=29)	4.52	4.21	4.38	3.07	2.41	4.86	3.38	3.21	3.21	3.97	3.66
中国男性カップル (N=19)	4.53	4.68	4.47	3.05	3.32	4.74	4.63	3.79	2.68	3.79	4.74
中国女性カップル (N=10)	4.70	4.30	4.10	3.50	3.40	4.80	4.40	4.20	4.50	4.70	5.00
日本友達 (N=31)	4.32	3.87	4.58	3.45	3.32	4.90	3.84	3.61	2.52	3.84	3.58
中国友達 (N=20)	4.65	4.05	4.50	3.75	3.65	4.85	4.60	4.05	3.30	4.40	4.30
日本男性友達 (N=9)	4.44	3.89	4.44	3.22	2.89	5.00	3.78	4.00	2.78	3.89	4.00
日本女性友達 (N=22)	4.27	3.86	4.64	3.55	3.50	4.86	3.86	3.45	2.41	3.82	3.41
中国男性友達 (N=13)	4.46	3.69	4.23	3.85	3.85	4.77	4.46	3.85	3.15	4.23	4.23
中国女性友達 (N=7)	5.00	4.71	5.00	3.57	3.29	5.00	4.86	4.43	3.57	4.71	4.43

以下本報では、とりわけ興味深い結果が出た、日本人男性の特性を詳しく見ておきたい。「カップル旅行」を選択した日本人男性で、とりわけ顕著な差異が認められた項目は「楽しみ・ワクワク (3.50)」、「天文知識に関する学び (2.42)」、「望遠鏡を覗くこと (2.75)」で、これら全ての項目で、他属性に比して最も小さい数値となった。日本人女性の「楽しみ・ワクワク」の数値が 4.38 であることに鑑みれば、AT のデートで求めるものが、男女間で大きく隔たっていることが理解できる。他方で日本人男性は、「綺麗な星空」の数値が 4.92 と、他属性に比して最も大きな値となった。AT のデートで「楽しみ・ワクワク」を求めない日本人男性が、なぜ「綺麗な星空」では大きな値をつけているのか。これは彼らが AT のデートで求めるのが、あくまでも「彼女と眺める」星空であって、星空「そのもの」ではないという点に起因しているものと思われる。それは、「天文知識に関する学び」や「望遠鏡を覗くこと」の割合が小さい一方で、「ロマンチックさ (4.17)」の割合が大きいことから看取できる。つまり、彼女と一緒に眺めるからこそ、彼らの眼には「綺麗な星空」として映るのである。裏を返せば、彼女と見るものであれば、その対象に特にこだわりはないとも言える。AT のデートにおいて彼らは、天文学的な知識

を特典に求めていないどころか、むしろガイドの存在を邪険に思っている節さえあろう。「カップル旅行」を選択した中国人男性の「望遠鏡を覗くこと」の値が 3.79 であることから、デート時の日本人男性が、AT そのものに興味を示していないことが理解できる。

翻って、「友達と旅行」を選択した日本人男性に目を転ずると、全体として「カップル旅行」選択者に比してポジティブな態度が看取された。とりわけ「楽しみ・ワクワク (4.44)」、「望遠鏡を覗くこと (4.00)」の値は、「カップル旅行」選択者に比して、前者が+0.96、後者が+1.25 となった。また中国人男性と比較しても、前者が+0.21、後者が+0.15 であった。このことから日本人男性は、友人同士で AT に出かける際は、AT そのものへの興味を示していることが理解できる。また、宙ツーリズム推進協議会によるマーケティング調査[3]では、日本人男性よりも日本人女性の方が、「宙ツーリズム」参加への潜在性が高いという結果を出しているが、本調査より、友人同士で AT に参加する日本人男性は、日本人女性よりもポジティブな態度を示していることが分かった。AT における「男旅」の潜在性が看取されたのである。

4. 結論

本調査の結果をまとめると、以下のように結論付けることができる。

◇日本人男性

他属性に比して「1人旅」と AT を結び付ける傾向。「カップル旅行」時は彼女と眺める星空が重要で、星空そのもの (AT そのもの) には興味なし。他方で、「友達と旅行」になると、AT への関心が導出され、全体としても正の傾きに転位する (=「男旅」の可能性)。

◇日本人女性

他属性に比して「カップル旅行」と AT を結び付ける傾向。彼氏であれ、友人であれ、星空は「誰かと一緒に眺めるもの」という意識が強い。ただ、同行者とのふれあいはあまり求めてない。また全体で見ると、日本人男性よりもポジティブな態度が看取された。

◇中国人男性

比較的「カップル旅行」と AT を結び付ける傾向。デート時は、彼女とのふれあいを通してロマンチックさを感じる。「友達と旅行」になると、AT そのものへの関心は薄まるが、「学習的側面」への関心は強まる。

◇中国人女性

「カップル旅行」時は、彼氏と写真を撮り、それを SNS 等で他者と共有したいという願望が強い。「友達と旅行」になると上記の傾向は減退するが、総じて各項目でポジティブな態度を示している。また「1人旅」と AT を結び付ける傾向があることから、自立的・能動的・積極的な人間像が導出された。

サンプルに偏りがあること (eg., OG/OB を含め和歌山大学観光学部生によるサンプルは、一般に比して AT に対する認識があるものと思われる)、クロス分析用の各サンプルが不足していること、質問事項の設定方法が非体系的であることなど、本研究には諸種の限界があるが、今後の AT 研究に際して有意なデータを収集できたものと思料する。

参考文献

- [1] 澤田幸輝・尾久土正己 (2021) 「国外におけるアストロツーリズム研究の諸論調—国内研究のフレームワーク構築に向けての考察」, 観光学, 24, pp. 21-40.
- [2] Matos, L, A. (2017) 'Terrestrial Astrotourism: Motivation and Satisfaction of Travelling to Watch the Night Sky', Aalborg University, Tourism—Master's Thesis.
- [3] 宙ツーリズム推進協議会 (2019) 「宙ツーリズム マーケティング調査」, https://soratourism.com/assets/pdf/sortourism_press.pdf.